第28回 茨城新聞広告賞

主催／株式会社 茨城新聞社
茨城新聞広告主懇話会

この賞は、広告活動発展のために多大な寄与をしたと認められる県内の企業・団体を顕彰し、たたえる目的で、茨城新聞創刊100周年を機に制定いたしました。今回の対象作品は2020年4月から2021年3月までの1年間に、茨城新聞に掲載された新聞広告です。イメージ・デザイン・コピー・メッセージ性などを基準に、5人の審査委員により厳正なる最終審査を行い選考しました。

【最優秀広告賞】
県北6市町・茨城県
（日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町）
2020年8月7日掲載

**県北地域の景色を旅する
30段広告の迫力。**

色とりどりの県北地域の魅力が一気に目に飛び込んできた。場所はもちろん、季節、時間、様々な条件が異なる6市町の非日常の風景。それらが茨城県内に在ることを、たった1枚の紙面で体感させられた大胆なデザインである。

観光という観点から本県の地域資源は、これまで県民にとって、どの程度目を向けられていただろうか。「知らないことを知る」これも旅の醍醐味の一つ、県北地域という私たちの身近にある非日常へ旅立とう。

審査総評
審査委員長　佐藤正和

プロフィール
1973年、水戸市生まれ。「いばらきをデザインする」をコンセプトに地場産業、行政施策・企業のブランドコンサル、デザイン戦略、商品開発のプランニングから実制作にも携わる。
（社）日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）会員、茨城デザイン振興協議会会長、（財）茨城県中小企業振興公社専門家（デザイン分野）、文化デザイナー学院非常勤講師など

人と人をつなぐ、茨城の生活と文化のコミュニティ。

メッセージとは相手の顔がイメージできると、その内容の質はもちろん、感情が込められることでお互いに通じ合うことができる。

コロナ禍も1年以上が経ち未だ先が見えにくい中、今年の受賞広告は広告主とターゲットである購読者とのつながり、そして新たな関係を生み出すメッセージ性が強い紙面が審査員の選定ポイントとなった。言葉とヴィジュアル、広告を為す二つの要素で購読者へ語りかけるように、広告主の想いが伝わる丁寧な企画が多く見受けられた、地方の新聞広告はまさに人と人のつながりを生む媒体そのもの。これまでは一方的だったメッセージが現代では、購読者からSNSを通じて拡散される中、インパクトあるデザイン表現やキャッチコピーも大事だが、より他の媒体にはない新聞広告ならではの掲載内容の企画力が問われている。誰もが数多の情報が一瞬にして手に取れる今だからこそ、人と温もりが感じられる広告が心を打つ広告ではないか、と感じた次第である。

【優秀広告賞】
長久保赤水顕彰会
2020年4月21日掲載

【優秀広告賞】
株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック
2020年6月26日掲載